3、相談センターでの支援実績（2009 年 5 月～2014 年 3 月 31 日）

◆現在、支援居室等 10 室（初期入居用 6 室＋談話室 1 室。就労者用シェアハウス3LDK1 戸）

◆2009 年 5 月以降、入居支援（一時宿泊含む）87 人。現入居 9 人。

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
25	39	21	1	1

◆学歴

中学卒	高校中退	高校卒	専門学校・短大	大学中退	大学卒
9	14	42	8	8	6

◆直前職

正社員	契約社員	派遣（日雇含む）	アルバイト	建設日雇	自営	その他
7	22	34	8	10	4	2

◆入居ルート

チャレンジネット	釜ヶ崎支援機構	その他
57	21	9

◆退居時（78 人）の状態

新たに居住先確保（社宅・住込含む）	施設入所	入居前の居所	自主退居	その他
57	2	4	14	1

（施設入所と入居前の居所に戻った 6 名は、緊急避難として入居）

◆居住先確保（57 人）の資金

就労収入（社宅含）	住込み	住宅手当	生活保護	その他（知人宅等）
33	7	8	7	2

◆退居時（居住先確保 57 人）の就労状況

常用雇用 （正社員・契約社員）	緊急雇用従事	無職で 生活保護	無職で 住宅手当	その他
40	11	3	2	1

4、一般社団法人での事業実績（2013 年度）

① 「大阪希望館ステップ就労事業（地域に埋もれている求職者に対する総合的就労支援事業）」
2013 年 6 月（本格実施 8 月）～14 年 3 月　を、大阪市市民局より受託。

◆　作業訓練、セミナー（PC 講習、面接練習や社会人力のアップなど）、イベントの企画運営を組み合わせて、中間就労（就労訓練）として実施。

◆　延参加者 29 人の内訳

新規スタッフ	希望館入居者	生活保護	自宅で非生保
5	12	10	2

◆　事業終了時（2014 年 3 月 31 日）の状況

就職して卒業済	途中退職	就職先決定	職業訓練等	その他
12	2	6	4	5

◆ステップ就労参加時に障がい者手帳を保持していた人、参加中か卒業後に取得した人

療育手帳を保持	療育手帳を取得	精神保健手帳を取得
1	2	1

② その他の支援

入居外寝場所支援	就労体験（19 日間）	その他の訓練事業	その他相談
2	15	6	5

ステップ就労事業で変化していった若者たち

一般社団法人　大阪希望館
ステップ就労事業・就労生活支援員　西川千津子

［人前で話すのが苦手な参加者が、自分から話しかけてくるように］

ステップ就労事業の参加者の中には「人見知りで」「人前で話すのが苦手で」「コミュニケーションをうまく取れない」人がけっこう多い。

作業中や休憩中も周りと打ち解けられずに、ここに居ることに疑問と不安を持ったまま、作業をこなし時間をやり過ごしている。

そんな中の一人が、話しかけて来た。私に興味を持ったみたいだが、自分から話しかけて来ることは今まであまりなかったようで、周りも驚いていた。それからは、自分の趣味の話ができそうな人に話しかけ、興味を引かれた人には進んで話しかけるようになった。また、作業の仕事や時間を守ることへの責任感も生まれてきたようで、スタッフに対して注意や意見を言って来るようにまでなった。

彼がここまで変わったきっかけと原因は、作業や勉強でもなく、同じ参加者の彼に対する想いが彼に通じたのだと思う。何くれとなく彼に話しかけ冗談を言い、時には注意をし、はげましていた。彼が長く休んだ時には、彼の席に向かって「どうしたんだ！」「待ってるぞ！」と叫んでいたのが印象的だった。その想いが他のみんなにも伝わり、彼を気にかけるようになり、声をかけ、話しを始めるようになった。

彼も自分が変ったことを認識し、それは仲間の一人のおかげだと言っている。

［参加していることが、不満で不安で疑問］

また、ここに来たことが不満で不安で疑問を持っている人も多い。

そんな彼らも「パソコン」は、これからの生活や就職には必要だと考えているので、進んで勉強を始める。苦手だと思いこんでいた人も自分のペースで覚えられるこで億劫にならずに触れることができ、楽しくなっていくようだ。

初めは嫌そうな顔をしていた人も「どうですか？」と聞くと苦笑いしながら「がんばってます。」「もっと上手くなりたい。」と言うようにまでなる。

基本的な「ワード」や「エクセル」だけでは物足りず、「関数」や「趣味のため」を勉強しはじめた人もいるぐらいだ。

その中でも、必要なのは「パソコン」だけ、他のどのプログラムも無意味だと思っている人がいて、作業も他のプログラムもまじめにこなしてはいるが、自分のためには不必要で役に立たないと感じていたようだ。そのためか、なかなか殻から出ようとせず、無関心で無気力で周りの人達の話も、ただ傍観しているだけのようだった。

また、「趣味の話」の時も、「自分には趣味も無い、趣味が必要な理由がわからない」や「ここにいつまでもいるつもりはない」と言っていた。

その彼が、ここから出るためだろうが、就職活動のためのプログラムで、自己 PR を考えた時、「今までの自分を振り返って思い出してみたら」と何度も聞いてみると、何かを収集していたことがあったと話してくれた。

それから、仕事の面でも、「もっと、あなたらしい所があると思うから」とこれも何度も聞いてみた。すると「一度も遅刻や欠勤をしたことがない」と話してくれた。その時に彼は普段ほとんど見せない笑顔を見せてくれた。彼が変ったのかはわからないが、周りとの距離を縮めたように思えた。また、社会人マナーや敬語のプログラムを、自分にとっては役に立つものと捉えてくれたことはささやかな変化だと思いたい。